International Cooperation Center for
Agricultural Education, Nagoya University

ICCAE news

No.16 2009. 9. 1

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成21年9月1日発行 第10巻 第1号(年2回発行;通巻16号)

発 行／名古屋大学 農学国際教育協力研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222
http://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/index.html
e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

第10回オープンフォーラム開催のお知らせ

国際協力に対する大学の貢献のあり方：戦略的参加にむけて
―農学知的支援ネットワークの設立―

開催日：2009年10月8日(木)～9日(金)
会　場：名古屋大学野依記念学術交流館

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、第10回オープンフォーラムを本年10月８日(木)から９日(金)に名古屋大学野依記念学術交流館で開催します。本フォーラムでは、我が国の大学や国際農業研究機関による農学分野における国際協力活動を推進するため、この機会に設立される予定の「農学知的支援ネットワーク」の活動内容や今後の可能性について広く意見を求めるとともに、大学の国際協力事業への戦略的な参画に有用な情報を参加者間で共有する予定です。既に参加を表明されている大学のみならず、多くの大学や研究機関からのご参加をお待ちしています。

平成21年度科学技術振興調整費「国際共同研究の推進」に採択

「東アフリカ稲作振興のための課題解決型研究」

平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「アジア・アフリカ科学技術協力の戦略的推進（国際共同研究の推進）」に「東アフリカ稲作振興のための課題解決型研究」が採択されました。本年度から３年間の予定で、ケニアを主な対象国として、現地に適したイネ品種の開発と稲作普及のための国際協力に直接的に役立つ知見・技術の創出に向けた国際共同研究に取り組みます。本研究には、名古屋大学、一橋大学および農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所に加え、ケニアのジョモケニヤッタ農工大学とマセノ大学が参加します。また、愛知県総合農業試験場山間農業研究所とも連携して研究を進める予定です。

サブサハラアフリカ諸国では、コメの消費増加に国内生産が追いついていないため、コメの輸入に多額の外貨が使われており、コメの増産が重要な課題となっています。とくにアフリカ稲（*Oryza glaberrima*）とアジア稲（*Oryza sativa*）を種間交雑して生まれた陸稲ネリカ（New Rice for Africa: NERICA）は、アフリカのコメ増産に役立つ作物として注目されています。

コメ増産の機運が高まっている東アフリカのケニアでは、標高1100メートル以上の高原地帯に高収量が期待できる広大な農耕適地や未利用の天水低湿地が広がっており、コメ生産量を底上げする大きなポテンシャルがあると考えられます。しかし、東アフリカの農業は、不安定な降雨パターンと不十分な灌漑施設のため、旱ばつの危険にさらされています。また、東アフリカの高原地帯のうち標高1500mを超える地域では、雨季の夜温が13℃程度に低下することがあり、冷害とそれに伴ういもち病の発生が問題になります。

そこで本研究では、東アフリカにおける稲作普及を阻害している要因として、主に旱ばつと冷害に着目しています。栽培学、作物生理学、作物育種学、土壌学、農業経済学、リモートセンシングの分野における実績があり、アフリカの農業を熟知した研究者が協働し、地理情報システム（GIS）を利用した稲作可能地域分級地図の作成とポテンシャル評価、ネリカ品種の乾燥および低温耐性の評価、冷害回避栽培技術の開発、現地環境に適したイネ品種の育成、稲作普及のための社会経済的条件の解明などに取り組みます。研究期間終了後には、国際協力機関との連携や国際協力関連の助成プログラム等を通じて、研究成果をアフリカ稲作振興のための国際協力に活用することを目指しています。

イネの生育調査の様子

（槇原大悟）